

●今年度のテーマについて

今年度のRI会長カルヤン・パネルジー氏(インド)は「心の中を見つめよう 博愛を広げるために」"REACH WITHIN TO EMBRACE HUMANITY"をテーマに掲げました。

3つの強調事項として、第一に「家族」強い家族を築くこと。第二に「継続」私達が一番得意とすることを継続してゆくこと。第三に「変化」変える必要があることは変える。と掲げています。カルヤン・パネルジーRI会長の方針は、非常に抽象的だと思いますが、私は今年度のテーマをこう考えました。

万事は家族から始まります。私たちが行う奉仕すべて、また世界で成し遂げたいと望むことすべての出発点は家族にあり、あらゆる家族の中心を成しているのが、母と子です。ここから始めてこそ、人々の生活や地域社会全体を通じて、世界をより良くしていくことができるのです。家族、そして人の幸せとは「衣食住と社会における自分の心の居場所」を確保することです。疾病の予防、識字力の普及、新世代のための活動や新世代との協力、平和への努力といった活動を、これからも続けていかなければなりません。慎重しやかですが、「家族仲良く暮らせる姿を世界中で実現する」ことが、奉仕の理想の姿なのでしょう。

第2770地区、三國ガバナーの今年度のテーマは「ロータリーに新風を」です。パネルジー会長の強調事項と同じく、目的達成のためには前例に拘らず、より良いものがあつたら変えていこう、という主旨です。詳しくは次週、三國ガバナーよりご説明いただけると幸いです。

●ロータリーの3つの危機

ここで、ロータリーの3つの危機についてお話ししたいと思います。第一の危機は、創立間もない当初、ロータリーの目的の違いで生じた危機です。1905年に創立された当初の目的は、親睦と会員間の利益の追求でした。1906年1月にポール・ハリスが作ったシカゴRCの定款は「第1条 会員の事業上の利益の増大」「第2条 通常社交クラブに付随する親睦、その他必要事項の推進」となっていました。当時のシカゴの時代背景としては企業倫理や道徳心が非常に薄かったため、商売上のトラブルの相談も多かったポール・ハリスが、仲良く信頼できる仲間内で売買ができて、自分達が儲けることができる組織を求めて作ったのが当時のロータリークラブだったのです。

ところが、ロータリーに一大転機が来ます。1906年5月に入会したドナルド・カーターが「利己的な組織には持続性、発展性がない。公共のための奉仕を行うべきだ」と提案し、ポールはこの報告を聞き、その提案を受け入れました。そして定款を改訂し第3条を追加しました。「第3条 シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める」。ロータリーはここで初めて、「奉仕」の概念を取り入れました。

そして最初の社会奉仕としてシカゴ市内に公衆トイレを設置しましたが、クラブの目的、存在意義の認識の違いは大変大きく「親睦・利益追求派」と「奉仕・拡大派」の対立が起こり、分裂の危機となってしまいました。そこで1910年には「全米ロータリークラブ連合会」を設立し、論争になった点についてはクラブ内でなく連合会で話し合うことにし、やがてロータリーの目的は、商売上の利益から奉仕へと変わっていきました。その時、ポール・ハリスが出した歴史的ドキュメントが「合理的ロータリアニズム」です。

第二の危機は、1923年におこった奉仕のあり方についての論争です。一つの考えは、「例会で奉仕の心を形成し、あとは職場や社会などで個人で奉仕をする」という個人奉仕についてのもの。もう一つは「クラブとして奉仕活動をするべき」という団体奉仕についてのものでした。これについての解決策はご存じの通り1923年セントルイス国際大会で採択された決議23-34に纏められました。決議23-34は、奉仕につい

ての個人奉仕か団体奉仕かの論争に終止符を打ち、当時のロータリーの全ての奉仕活動の指針であると同時に、ロータリーの奉仕の哲学を表す歴史的にも非常に重要な文書です。

第三の危機は、1929年の世界恐慌、1945年の第二次世界大戦にかけての会員数の減少でした。ロータリーは経済人の集まりですから、経済状況の影響をまともに受けます。日本でも1920年に東京RCが創設されて以来、この危機に対し先人たちはロータリーを残す努力をしてきましたが、残念なことに第二次世界大戦の影響で1940年には日本のクラブは全てRIから脱退することになってしまいました。戦後、復帰加盟したのち大発展を遂げますが、今日では再び不況のあおりを受け、特にアメリカと日本においては会員減少が続いており、三國ガバナーは今年中に、2770名まで会員を増やそうと皆様をお願いしております。どうぞ、皆様のご協力をお願い致します。

ロータリーを取りまく環境は、刻々と変化しています。ロータリーの基本を見据え、目的のためには何を守り、何を考えていかなければならないのか、不易流行を判断して進めていく必要が現代の私達には課せられています。ロータリーの未来と希望のために、共に知恵を出し合って頑張ってください。

ニコニコボックス

- 川島 健様 本日の非公式、来週の公式訪問、戸田RCの皆様よろしくお願ひ致します。
- 城戸重子 第12Gガバナー補佐川島様、本日は宜しくご指導お願ひ致します。熊沢様、入会おめでとうございます。私の大先輩です。今後ともどうぞ宜しくお願ひします。
- 榎本浩子 何と嬉しい涼しさでしょう。熊沢様、入会おめでとうございます。ロータリーライフをゆっくりお楽しみ下さい。川島ガバナー補佐、今後のご指導、どうぞ宜しくお願ひ致します。
- 熊沢嘉孝 この度、入会させていただきました。至らない者ですのでご指導宜しくお願ひ申し上げます。
- 飯島 隆 妻の葬儀には、皆様大変有難うございました。

川島ガバナー補佐、ご指導よろしくお願ひ致します。熊沢さん、入会おめでとうございます。

- 花岡九五郎 植野正裕 渡辺一利 野村眞一 山川和邦
- 永井 悟 八木橋義太郎 榎本君子 八木橋 実 大野末壽
- 奥墨元治 西袋秀雄 岡本忠美 大崎 昇 金子篤徳
- 稲葉 寛 池上良久 宮沢武史 赤塚光朗 金子耕治
- 熊木幸雄 八木橋賢一 長谷川春一 八木久治 金子洋太郎
- 小林寿之 市ヶ谷輝男 都丸勇夫 磯島栄一 熊木雄太郎
- 斉藤弘子 (受付順)

前回迄累計	189件	355,000円
本日の合計	35件	56,000円
合計	224件	411,000円

出席報告

月日	会員総数	計算に用いた会員数	出席者数	MU	出席免除者の出席数	欠席者数	出席率
8/1	52	41	30	1	7	10	79.2%
8/8	52	41	29	5	5	7	84.8%
8/22	52	41	32	0	6	9	80.9%



国際ロータリー 第2770地区 第12グループ
THE TODA ROTARY CLUB
戸田ロータリークラブ

第12グループ例会場一覧

- 蕨 RC 東晶大飯店蕨店 火 12:30
- 川口西 RC 大和証券川口支店 4階 火 12:30
- 戸田西 RC 美鴨信用金庫戸田支店 木 12:30
- 川口北 RC 東京信用金庫蕨支店 2階 水 12:30
- 川口北東 RC 川口市立グリーンセンターレストラン赤棠 火 12:30
- 川口中央 RC 川口そごう 10階タリアルーム 月 19:00
- 川口むさし野 RC 川口市立グリーンセンターシャトー赤棠 水 12:30
- 戸田イブニング RC 戸田市文化会館 3階 木 19:00

- 国際ロータリー会長 カルヤン・パネルジー
- 第2770地区ガバナー 三國 明
- 第12グループガバナー補佐 川島 健

会報 2011-2012年度 平成23年8月29日発行

本日のプログラム

第2296回例会
8月29日(月) 点鐘12:30
ガバナー公式訪問
RI第2770地区ガバナー 三國 明様
(春日部西RC)

次回のプログラム

第2297回例会
9月5日(月) 点鐘12:30
クラブフォーラム
[理事会]

戸田ロータリークラブ
創立：1964年5月25日
例会日：毎週月曜日 点鐘12:30
例会場：戸田市文化会館
〒335-0022 戸田市上戸田4-8-1
TEL：048-445-1311
事務局：ダイヤメゾン戸田公園1階
〒335-0011 戸田市下戸田1-7-16
TEL：048-445-2437 / FAX：048-432-6331
会報制作：有限会社 雅堂
TEL：048-989-8228 / FAX：048-989-8229
info@miyabido.co.jp

会長テーマ：「みんなで・めざそう
真のロータリアン」
会長：城戸重子 副会長：池上良久
幹事：榎本浩子 副幹事：磯島栄一
クラブ広報委員会
委員長：長谷川春一 副委員長：山川和邦
委員：永井 悟 金子篤徳 熊木雄太郎 日坂敦夫
戸田ロータリークラブ Web Site
ホームページ http://www.toda-rc.com/
Eメール toda-rc1t@sapphire.bforth.com

第 2295 回例会報告

例会日：2011年8月22日（月）

会場：戸田市文化会館

開会点鐘 城戸重子会長

ロータリーソング 手に手つないで

行事 ・ご挨拶 飯島 隆会員

・新会員紹介 赤塚光朗会員

熊沢嘉孝新会員

会長挨拶 城戸重子会長

幹事報告 榎本浩子幹事

委員会報告 各委員会

行事 「ガバナー補佐非公式訪問」

第 12G ガバナー補佐 川島 健様

閉会点鐘 城戸重子会長



お客様 第 12G ガバナー補佐

川島 健様 (川口西 RC)

●新会員紹介

新会員 熊沢嘉孝

熊沢印刷工業株式会社

代表取締役

※熊沢新会員のご紹介は、次号、入会式とあわせて掲載いたします。



祖父の隣に座って「南無妙法蓮華経」と唱えて手を合わせて育ったからです。今は嫁いで 50 年以上の歳月が経っておりますので、それぞれの宗派の経文を自然に唱えることが出来るようになっております。

「南無阿弥陀仏」と「南無妙法蓮華経」の意味を調べてみました。南無という言葉は、帰依するとか、従うという意味で、「南無阿弥陀仏」は阿弥陀様にお任せしますということです。「南無阿弥陀仏」と唱えれば全ての人が救われ、阿弥陀様のおられる浄土に行かれますよというのが法然上人の説く浄土宗の教えです。同じ「南無阿弥陀仏」でも、浄土真宗の場合はお任せするのではなく、仏様から「任せてくれよ」と呼ばれているのだそうです。ここが親鸞聖人の仏道が「絶対他力」と言われる由縁だそうですが、これ以上追求していくと話が長くなりますので、この辺にしておきます。

日蓮宗の「南無妙法蓮華経」は、日蓮宗が唯一の経典としている「法華経」という経典にお任せしますということです。お盆のお墓参りに一緒に行った弟に聞いてみますと、「俺はこの仏様の前でも南無妙法蓮華経だよ」とけろっと言われてしまいました。五木寛之さんは、他者を許容する広い心を持つ仏教こそが、世界のいがみ合いを救うと言っておられます。仏様の物指しは、計らない、比べない、あるがままを受け入れるということなので、私は仏教の原点はお釈迦様、宗派はそのバリエーションと割り切って御先祖様を大切にしていきたいと思っています。

次週はガバナー公式訪問です。本日もお配りした「真のロータリアンになるための目標」を使いたいと思いますので、忘れずにお持ち下さい。

最後に、最近読んだ本の中からおすすめの一冊をご紹介します。《おすすめの一冊》

「池上彰の宗教がわかれば世界が見える」
元 NHK アナウンサー 池上彰 著 (文春新書)



幹事報告

幹事 榎本浩子

1. 管理運営部門セミナーのご案内 9月3日(土)
2. 地区補助金の入金がありました。(社会奉仕・国際奉仕)
3. 故市ヶ谷光男会員の奥様より頂いた R 財団へのご寄付に対して、御礼状と M・P・H・F のピンが届きました。
4. 事務局より上半期会費の引き落としについて (今月末)

◆ご挨拶

飯島 隆会員

先日 18 日の妻の葬儀には、暑いところ大勢の方にご会葬いただき本当に有難うございました。この場を借りて、御礼申し上げます。



委員会報告

◆社会奉仕部門

委員長 日坂敦夫

皆様こんにちは。社会奉仕部門より、数点ご案内申し上げます。



●陸前高田の高田松原について

テーブルに一冊ずつ「高田松原ものがたり」をお配りさせていただきました。これは陸前高田 RC の佐々木松男幹事がお作りになられたものです。佐々木幹事は「高田松原を守る会」の会員でもあり、震災以前に発行していた「高田松原ものがたり」に加筆し、この度、自費出版されたということです。「高田松原を守る会」では、60 人いたメンバーのうち、津波で吉田前会長など 10 人が死亡、または行方不明になっているそうです。しかし、残ったメンバーが中心となり、高田松原の復興に向けての活動を開始したとお聞きしております。

経緯をお話させていただきますと、東京紀尾井町 RC の垣見祐司さんという方が「東北(被災地)支援の会」を立ち上げておられ、そのホームページを目にする機会がございました。そこで僅かですが、ご支援をさせていただいたところ、この「高田松原ものがたり」を 10 冊送っていただいたのがきっかけです。垣見さんは明日、陸前高田に入り、陸前高田 RC の佐々木幹事に義援金をお渡しし、今後の復興について協議を行なうということです。陸前高田では、唯一残った「奇跡の一本松」も海水の影響で危機的な状況にあるとお聞きしました。個人でお手伝いできることは限られていますが、一人のロータリアンとして、高田松原の復興にご協力できたらと思っています。「高田松原ものがたり」にご興味のある方がいらっしゃいましたら、申し出ていただければ、こちらで一括して注文いたします。なお、紀尾井町 RC の垣見さんが、9月1日(木)に東日本大震災のボランティア体験について卓話をされるので、紀尾井町 RC に行ってお参りたいと思います。

●被災地支援講演会「REAL」第 2 弾の開催

掲示板に講演会のご案内を貼らせていただきましたが、9月13日、14日に「ゼスト恵比寿」において、畠山重篤さんの第2回目になる講演会が開催されます。畠山さんをご存知のように、NPO「森は海の恋人」の理事長として、環境教育・森づくり・自然環境保全の活動をされておられます。この困難な状況の中でも、今年も植樹祭を行ない、夏には「子どもサマースクール」や「里山リバーキャンプ」の活動をされました。二部構成になっており、一部は畠山さんが「今後の沿岸地域や海洋環境、復興のあり方について」というテーマでお話をされます。また、第二部では、震災の際に船を捨てて海に飛び込んで、九死に一生を得た畠山重篤さんの三男の信さんに「報道からは伝わらない厳しい現実や支援活動の実態、また、被災者の心の葛藤や不安、怒りなどの本音」をお話しいただきます。

前回の講演で畠山さんは、今回の震災による津波で大きな被害を受け、お母様を亡くされましたが、それでも「海にうらみはない」「自分は海が好きだから、やはり海の近くに住んでいたい」と言っておりました。「海は何も壊れていない」「壊れたのは人間が作ったものだけ」とも言っておりました。畠山さんが船で海に出てみるとマンボウが船にぶつかってきた

そうです。それを見て、「川と森さえ再生出来れば、未来は開けてくると確信した」と仰っていたことが印象に残っています。もし興味がございましたら、こちらも私の方で一括して事前申し込みをさせていただきますのでお声かけ下さい。

●社会奉仕委員会の活動についてのアンケート

既にお配りしているアンケート用紙に、今年度の社会奉仕委員会の活動についてご意見をいただきたいと思っております。一つは東日本大震災の支援活動についてです。戸田 RC として行なった方が良いと思っておられる支援活動がございましたら、お知らせいただきたいと思っております。以前にもお話をさせていただきましたが、震災後より半年を向かえ、今後は緊急性のある支援活動より、被災した地域が復興するための息の長い支援が必要になってくると思っております。そのためにはどの様な支援が必要か、皆様と考えたいと思っております。

一案として私が考えておりますのは、先ほどお話させていただいた「高田松原の復興」と畠山さんの NPO「森は海の恋人」に対する支援活動などの検討です。畠山さんの水山養殖場では「復興オーナーズ&サポーターズ」の募集を行なっております。「水山カキ、ほたてセット」を前払いで購入し、水山養殖場の復興後に商品を届けて頂けるというものです。

こんな形で、一方的にお金を出すだけでなく、自分にくらかでも帰ってくるような支援の形を模索したほうが、支援として長続きすると思っております。三陸鉄道では電車のヘッドオーナーを募集していましたが、応募が多すぎて締め切られてしまいました。応募するとロータリーマークを先頭につけた電車を走らせることができましたので、少し残念でした。社会奉仕委員のみなさんの中で何かお考えがありましたらお知らせいただこうと思っております。

また、震災支援以外にも「こんな社会奉仕活動がしたい」というものがあればご意見下さい。今年度は難しいものでも次年度以降に実施できますように、次年度の社会奉仕委員長と協議してまいりたいと思っております。頂いたアンケートを元に、9月中旬以降に委員会を開きたいと思っておりますので、社会奉仕委員の方はご協力を宜しくお願い致します。

なお、このアンケートは強制的にご回答を求めるものではありません。記入は任意です。ご意見のある方のみフリーフォーマットでご回答をいただければと思います。勿論、口頭でご意見を賜りましても結構でございます。皆様のご協力を重ねてお願い致します。



行事

ガバナー補佐非公式訪問

第 12G ガバナー補佐

川島 健 (川口西 RC)



皆様こんにちは。本年度、第 12 グループガバナー補佐を仰せつかりました川島です。一年間よろしくお願い致します。

ガバナー補佐の役目は、国際ロータリー (RI) の方針、第 2770 地区並びにガバナーの方針を皆様にお伝えし、クラブを始め皆様の活動状況やご相談事を地区に報告するパイプ役となります。当クラブには、私が会長の時にご指導いただいた池上さん、幹事の時にご指導いただいた長谷川さんがおいでになり、歴史も古く、第 12 グループでは一番会員数も多く活動も充実されているクラブですので、今更特別に言うこともありませんが、今日はお役目でございますので、宜しくお願い致します。